

宮崎県を襲った

口蹄疫発生と

新燃岳の噴火。

全国から寄せられた

多くの支援に勇気、

そして

立ち上がる力を

与えてもらいました。

ありがとう。

東日本大震災という

未曾有の災害が

起こった今、

宮崎県民として

わたしたち

串間市民に

何ができるのか。

感謝の気持ち、

復興の姿を表そう。

こうして生まれた

『音楽で紡ぐ

”絆“創造事業』。

『福島』という名前が

2つのまちに新たな交流と

絆を芽生えさせた。

がんばろう。

ともに。

ともに。



『福島』の名が つな いた縁—そして絆

10月12日から14日までの3日間、福島県立福島高校の合唱部員30人（顧問を含む）が串間市を訪れました。そして同じ『福島』の名前を持つ、串間市の福島高校の生徒と交流。市民秋まつり文化祭ではその美しい合唱で聴衆を魅了し、串間白ばらホールとの共演も果たしました。東日本大震災支援の一環として取り組んだ『音楽で紡ぐ”絆“創造事業』。企画・運営を担った東北支援・交流くしま実行委員会会長の金川敏洋さんに話を聞きました。

ひとつになった思い
福島高校のPTA会長を務めていることもあり、かねてから『福島市の福島高校と交流を持ちたい』と考えていました。そのころ、市でも同じ思いを温めていました。口蹄疫発生や新燃岳噴火など、かつての災害支援のお礼にと県の「みやざき感謝プロジェクト」を活用し、東北支援をしたいと考えていたようです。

そんな両者の思いがひとつになり、今回の事業が生まれました。

『遠』が『縁』に
今回の事業では、市や民間の各種団体、高校などで実行委員会を結成。皆が『何か支援したい』と強い

思いを持っていたのでそれぞれが主体性を持って行動し、素晴らしい協働ができました。この瞬間に立ち会えたことに感謝しています。

こんな感動的な場面もありました。最終日、サプライズで地元福島高校の全生徒が沿道に並び、福島の生徒を乗せたバスを見送ったのです。このとき、重要な学校行事の最中でしたが、校長先生の判断で見送りを敢行。約300名近い生徒の列は圧巻で、見る者の胸を熱くしました。

福島市のある生徒はこう話してくれました。「串間で最も感動したのは、関係してくれた皆さんの温かい気持ちです。その気持ちがうれしかった」と。深く心に響きました。

串間と福島。今回が交流の始まりです。人の行き来はもちろん、地場製品の流通での交流も図っていったらいいですね。遠くても『福島』という名前が結ばれた両市の縁。この縁を大切にこれからも『縁距離交流』をしていきたいと思っています。



東北支援・交流くしま
実行委員会会長
金川敏洋さん

※串間での交流の様子は、来月号「くしまご紹介」で福高生（串間市）がレポートします。